

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立長野原高等学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・④・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1 各教科における取り組み A 第3学年（スポーツレクリエーション選択者）21名 B 第1学年（音楽Ⅰ）39名 C 第3学年（ビジュアル世界史選択者）7名 2 図書委員会活動における取り組み 図書委員会（1～3年生）22名 第1学年（保健）39名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名（保健・スポーツレクリエーション・音楽Ⅰ・ビジュアル世界史） ② 行事名（ ） ③その他（図書委員会活動） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	1 各教科における取組 パラスポーツ体験や音楽の鑑賞等を通じて、オリンピックやパラリンピック、スポーツの意義・歴史・楽しさを学び、興味・関心を高めるとともに、多様性を尊重する態度を育成する。 2 図書委員会活動における取組 オリンピック・パラリンピック教育を多角的に行うことで、オリンピック・パラリンピックを身近に感じさせるとともに、共生社会への理解を高めさせる。
5 取組内容	1 各教科における取組 A 第3学年 スポーツレクリエーション ◎パラスポーツ体験 開校記念講演会を受けて、パラリンピックの正式種目であるシッティングバレーボールとゴールボールの体験をスポーツレクリエーションの授業で行った。 それぞれの種目について、ルールや使用する用具などの説明をし、練習をした後、簡易ルールを用いてゲームを行った。

○シットティングバレーボールの様子

・パス練習



・サーブ練習



・ゲーム



○ゴールボールの様子

・ディフェンス練習



・目隠しをしての練習



・簡易ルールによるゲーム



○それぞれの種目の体験終了後、「実践してみての感想、パラスポーツに興味関心を持てたか」といった内容のアンケートを実施した。

B 第1学年 音楽Ⅰ

◎「ベートーヴェンが残したメッセージとは？」

～オリンピックとの共通点～

ベートーヴェンの交響曲第9番（第九）を鑑賞し、曲に込められたメッセージを考えた。その際、「オリンピックの目標」「第九が世界の歴史に残るような機会に演奏される理由」とからめ、ベートーヴェンのメッセージとオリンピックが目指すものとの共通点を探した。



C 第3学年 ビジュアル世界史

◎ヨーロッパの世界遺産

オリンピアの世界遺産を通して、古代・近代オリンピックについて学んだ。

2 図書委員会活動における取り組み

◎オリパラ関連本紹介コーナーの設置

7月に県立図書館から授業支援セット「オリンピック・パラリンピック」を借り、図書委員会イベント班が中心となってポップを作成した。作成したポップは、書籍を並べて展示し、特設コーナーとして校内放送で貸し出しの案内を行った。（貸出期間8～9月／1～2月）

1回目の貸出期間は、授業での利用が中心であり、個人利用は少なかったものの、ボランティアでポップのイラストを描いてくれる生徒やポップを眺めにくる生徒もあり、42冊の個人貸出があった。2回目の貸出期間は、開校記念式典後に予定している。12月現在、開校記念式典講演会を受けてオリンピック・パラリンピックに興味を持った生徒から、授業支援セットには含まれていない書籍について、購入希望が出ている。書籍が手に入り次第合わせて案内したい。



◎イラストコンテストの開催

例年秋に実施しているイラストコンテストについて、今回のテーマを「オリンピック・パラリンピック」とした。応募作品については、図書貸出の際に配付している「しおり」に利用している。



↑ 図書館入り口廊下に掲示

◎授業での活用のよびかけ

- ・第1学年 保健

「オリンピック・パラリンピックについて読んでみよう！」

図書室の「オリパラ関連本紹介コーナー」を利用して、オリンピック・パラリンピックの歴史や競技内容等についてのレポートを作成する活動。



6 主な成果

1 各教科における取り組み

A 第3学年 スポーツレクリエーション

◎パラスポーツ体験全体を通じて

シッティングバレーボールとゴールボールの体験を通じて、生徒はそれぞれの種目の楽しさを味わえた。また、それぞれの種目の難しさを体験することができ、共生社会について考えるきっかけになったのではないかなと思う。また、アンケートの結果から、約9割の生徒がパラスポーツに興味を持つことができた。

○シッティングバレーボールについて

- ・生徒は思っていた以上にその難しさを感じていたようである。

パス練習では、お尻をついた状態で素早く落下地点まで移動すること、サーブを打つときになかなか力が入らないことに難しさを感じていた。

- ・ゲームにおいては、シットイングバレーボールの独自のルールで「サーブブロック」があるため、それを効果的にするにはどうすればよいか、サーブブロックにかからないようなサーブの打ち方はどうすればよいか、などをチームで話し合いながら実践をし、楽しむ様子が見られた。
- ・アンケートには、「とても難しかった。床にお尻をつけなければならず、移動が思うようにできなかった。」「力の入れ方、動き方が難しい。」「競技をやっている人たちはすごいと思った。座っての移動がなかなかできなかった。」といった声が聞かれた。

○ゴールボールについて

- ・目隠しをした状態で、音だけでボールが来るのを判断し、止めることに恐怖と難しさを感じているようだった。また、ボールを投げるときも目隠しをしているため、ゴールの範囲内に投げることも難しかったようである。
- ・ゲームにおいては、オフェンスでどこにボールを投げるか、ボールを投げる選手以外の者が音で攪乱したりするなどチームで話し合い、作戦を立て実践する様子が見られた。
- ・ゴールが決まったとき、ボールを止めたときなどチームで拍手をして盛り上がる様子が見られ、生徒は競技を楽しんでいた。
- ・アンケートには、「耳だけが頼りで、ボールを止めなくてはいけなく、ボールに触れたとしても変な風に体に当たり、バウンドしてゴールに入ってしまうことが多くて難しかった。けど楽しかった。」「目が見えない状態で、音だけでゴールを守るのは怖かった」などの声が聞かれた。

B 第1学年 音楽Ⅰ

○「歓喜の歌」はほとんどの生徒が聴いたことのある旋律であったため、興味をもって鑑賞することができた。また、授業の始めでは「聴いたことがある」に留まる生徒が多かったが、最後には「ベートーヴェンが曲に込めたメッセージを知ることができた」「この曲が流れる時、少しでも平和に向かってほしい」「こんな気持ちを持てるようになったらいいな」と考えを深めることができた。

C 第1学年 保健

- ・パラリンピック・ムーブメントについて調べたことで、障がい者の社会参加の場が増えてきたことを知り、よりよい社会のあり方について考えられた生徒もいた。
- ・生徒の感想の中には、「パラスポーツのルールや特性を調べたことで、障がいへの印象が変化した。」というものや、『失われたものを数えるな。残された機能を最大限に活かせ。』という言葉から、状況の捉え方を学んだ。」等があり、障がい者理解や他者理解を深め、自己を振り返るきっかけとなったようだった。

	2 図書委員会活動における取り組み ・図書館に、生徒が紹介する形式の特設コーナーを設置したことによって、紹介する側の生徒も図書館を訪れる生徒も興味・感心が高まった。 ・複数の生徒から図書室に、オリンピック・パラリンピック関連本のリクエストが上がった。 ・イラストコンテストのテーマを「オリンピック・パラリンピック」にしたことや、イラストのしおりへの利用によって、オリンピック・パラリンピックが身近に感じられたように見受けられる。 ・特設コーナーを授業で活用したことで、「開校記念式典講演会」の事後学習にもなったように思われる。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	1 各教科における取り組み A 第3学年 スポーツレクリエーション ・それぞれの種目を説明するときに、「東京2020オリンピック、パラリンピック競技大会公式ウェブサイト」の動画を見せて、生徒のイメージがわきやすいようにした。  ・ゴールボールを行う際は、フットサルボールに鈴を入れたビニールをかぶせ、正式なボールの代替とした。これにより用具購入の費用を抑えられ、正式なものより軽量なので、体に当たる衝撃を抑えられた。 2 図書委員会活動における取り組み 本校の生徒は、ボランティア活動へ積極的に取り組む者が多く、特に図書館での活動に意欲的である。そのため、授業外でのオリンピック・パラリンピック教育の場として、図書館での生徒中心の活動を企画した。実施に当たっては学校司書の協力のもと、図書委員イベント班を中心とし、生徒の活躍の場を設けた。また、ボランティア希望の生徒についても協力をお願いした。
8 主な課題等	1 各教科における取り組み A 第3学年 スポーツレクリエーション ○シットイングバレーボールではボールの落下地点の移動やサーブやパスの力の入れ方が難しいため、なかなかラリーが続か

	ずゲームではあまり盛り上がりなかった。ラリーを続ける楽しさを味合わせるためにもう少し時間を作って取り組みばよかったと思う。 ○ゴールボールは、正式なボールやアイシェード、ゴールポストをそろえるのに購入費用が多くかかるため、代替する用具をそろえるのが大変で、計画的に授業を行うのは困難である。特に、アイシェードは感染症対策も気になる場所であり、使い回しをすることが難しく、一度使用したら洗濯・消毒するか、一人一人購入するかを考慮しながら行わなくてはならない。 B 第1学年 音楽Ⅰ ○今回は1時間の授業で行ったが、複数時間で構成し、更に考えを深められるようにしていきたい。 2 図書委員会活動における取り組み ○今回はコロナ感染予防のための家庭学習期間もあり、生徒が活動について話し合う時間を十分に持てなかった。今後、同様の事業を計画する際、十分に準備期間を取り、生徒から活動案を出してもらい、より主体的な活動の場となるようにしたい。
9 来年度以降の実施予定	○来年度以降、保健体育の授業などでオリンピック・パラリンピックに関する授業を取り扱い、興味関心を高めるとともに実技においてはその楽しさも味合わせるようにしたい。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立長野原高等学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	群馬県立長野原高等学校 全学年106名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名(開校記念講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○義肢装具士やパラアスリートの話を聞くことにより、障がいに対する知識を身につけるとともに、障がい者への理解を深め、目指すべき共生社会について考える。
5 取組内容	○開講記念講演会 日時：令和2年11月12日 演題：「キッカケ」 講師：沖野 敦郎 先生 株式会社 OSPO オキノスポーツ義肢装具 代表取締役 義肢装具士 中学・高校・大学・専門学校と陸上競技部に所属。高校時代にロボットの製作をしたいと思い、工学部に進学。大学在学中にパラリンピックと出会ったことがきっかけで義肢装具士を志す。 講師：池田 樹生 先生 パラアスリート 右足の膝下と右腕の肘から先、左手の指が2本ない先天性の障がいがありながら、小学校時代から少年野球やサッカーを経験し、中学校時代はバスケットボール部に所属し取り組んだ。高校からパラ陸上競技を始め、中京大学進学後の2016年にジャパンパラ大会の400mで57秒40の日本新記録を樹立。世界パラ陸上競技選手権大会ロンドン2017日本代表。

○講演会の内容

・沖野 敦郎 先生

多くの人が義肢装具士や障害者についてあまり知らない。しかし、知らないことは恥ずかしいことではなく、知らないからこそ新しいことを吸収してほしい。

今回の講演では、先生の進路選択・職業観を障がいのある人への理解とからめてお話いただいた。よりよい人生を歩む上で大切なのは、他者理解と知識をアップデートしていこうとする姿勢である。そのような思いを込めて、「世の中には知らないことがたくさんある。勉強即ち知ること。」という言葉を送っていただいた。



・池田 樹生 先生

小学校の頃から、左足を除いた四肢に先天性の障がいがあることを利用して、やりたくないことを「僕には障がいがあるからできません」というパワーフレーズで避けてきた。しかし、工夫することにより、上手くできなかったキャッチボールができるようになった経験から、「やらない」ことは自分に嘘をつくことであると思うようになり、何事も工夫して取り組むようになった。

現在は、プロの陸上競技選手として活躍している。好きなことを仕事にしたことで、乗り越えられたことや楽しさがある。しかし、陸上競技を始めた頃とは異なり、プロとして取り組む陸上競技には責任や辛さが伴う。好きなことを仕事にできるのは素晴らしいことだが、それなりの覚悟が必要である。一瞬の楽しさを味わうために、そこに至るまでの苦しいことや大変なことに真剣に向き合ってほしい。

池田先生からは、進路選択や職業への責任をお話いただくとともに、競技での工夫や用具の開発についてのお話や、競技用の義足をつけてのデモンストレーションをしていただいたほか、公演後も、自由に義足を触る時間をいただいた。生徒たちにとって、障がいや障がいのある人について身近にとらえ、考える貴重な時間となったようである。講演終了後も義足を近くで観察しようとしたり、講師控え室を訪れて質問をしたりする生徒の姿が見受けられた。



6 主な成果	○義肢装具士や現役のパラリンピック選手と交流することで、障がい者に対する理解が深まった。 ○自分自身の職業観や人生観を再考するきっかけになった。 ○人生を変えるきっかけが日常に散りばめられていることを認識することができた。 ○生徒の感想文より（一部抜粋） ・池田さんのように、自分に対してとても自信があり、かつ自分のことが大好きと言えるのは大切なことだと思いました。 ・今回の講話を通して、今までの人生とこの先の人生について深く考えさせられました。この先、何が起こるかわかりませんが、考え続けながら、自分の夢に向かって進んでいきたいと思っています。 ・「好きなことを仕事にする」という言葉がとても印象に残っています。自分も好きなことを仕事にするために、たくさんのことを学んでいきたいです。 ・やりたくないことをやる前から諦める行動は、自分の将来につながる 1 つの選択肢を無駄にしているかもしれないと思いました。 ・自分もいつか池田さんのように、人生を誰よりも楽しんでいると思えるようになりたいと思いました。 ・一番心に響いたのは「考え方、捉え方次第で人生が変わる」という言葉です。私も、沖野さんや池田選手のようにポジティブに生きようと思えました。 ・「価値観は時代とともに変化する」という言葉を聞いて、本当にそうだなと思いました。 ・心の在り方次第で、体に不自由があろうがなかろうが可能性は平等なのだと気付きました。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	○講演内容の理解を深められるように、メモ用紙を用意した。 ○公演後に選択科目スポーツレクリエーションにて、パラリンピックの正式種目である「シッティングバレーボール」と「ゴールボール」の体験を行うことで、パラアスリートの体の使い方や工夫について実感させる機会とした。 ○図書室の「オリンピック・パラリンピック関連本紹介コーナー」の設置を講演会後に再度設定し、オリンピック、パラリンピックや障がいについて講演後も継続的に学び続けられるようにした。 ○講演で紹介された書籍について、購入と図書館での貸出を予定している。
8 主な課題等	○新型コロナウイルス感染防止の観点から「代表生徒の義肢体験」については実施できなかったが、障がい者の身体的な負担を実感するためにも、体験活動の実施が望ましい。
9 来年度以降の実施予定	○各授業やホームルーム活動の中で、障がいのある人理解や共生社会に関する指導を継続していく。